

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 愛知県立海翔高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	3年生普通科スポーツコース（13名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ トレーニング演習 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	今回の講義および体験活動を通して、生徒のオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高め、東京オリンピック・パラリンピックの発展に貢献する。
5 取組内容	<p>愛知医療学院短期大学に出前授業をお願いし、普段の授業ではできない車いすバスケットボールを題材とし、授業を展開することとした。</p> <p>事前指導として1時間、オリンピック・パラリンピックについての基礎知識の学習と、リオデジャネイロ、平昌オリンピック・パラリンピックの映像を見るなどして、生徒のオリンピック・パラリンピックの興味・関心を高めようとした。</p> <p>出前授業当日は、まず、オリンピック・パラリンピックのシンボルマークや種目数など基本的な知識に関する講義を受けた。</p>



次に、車いすバスケットボールの県強化指定選手の生い立ちや障害を持った経緯などのお話をいただいた。



最後に、車いすバスケットボールの体験活動を県強化指定選手とともにいった。



事後指導としては、アンケートを行った後に、今回の講義・体験を行ったことについて振り返り、どのようなことを学ぶことができたかについて確認するなどした。

6 主な成果

生徒に事前アンケート、事後アンケートを行った結果、事前調査ではオリンピックとパラリンピックを比較すると、オリンピックの方がパラリンピックよりも生徒の興味・関心は高く、種目やシンボルマークなどを知っているかという知識の面でもオリンピックの方が高いという結果がでた。

しかし、講義および体験活動後のアンケートでは、すべての生徒がオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心に変化があると答え、また、今後オリンピック・パラリンピックに注目すると答えた生徒がほとんどであった。とくに事前アンケートでパラリンピックに対して、「あまり興味がない」、「全く興味がない」と答えて生徒も、事後アンケートでは否定的な回答から肯定的な回答へと変化が見られ、今回の活動の成果が出たと考えられる。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校の生徒の特色から講義だけではなかなか身が入らないと考え、体験活動のできる団体に依頼をした。また、オリンピック種目でなく、パラリンピック種目にする事で、普通の授業では経験することのできない活動を行うことができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>わざわざ遠くから出向いていただき、かつ、とても良い内容であったにも関わらず、対象生徒が13名とやや少なすぎたと感じた。より多くの生徒が体験できる機会となるよう、種目設定や授業展開を工夫し、行っていきたいと考える。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今回は初めての種目での試みであったため、人数を制限して行ったが、本校の特色であるスポーツコースを3学年まとめて行っていきたいと感じた。今後は、毎年異なる種目で実践し、多くの生徒達のオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めていきたい。</p>